

市と日本文理大学が「相互協力協定」に調印



互いの発展のためがっちり握手

3月25日、佐伯市と日本文理大学が「相互協力協定」を結び、調印式が行われました。

この協定は、産業の振興、人材育成、環境の保全、情報化など、様々な分野の課題について、両者が協力して、その解決を図っていくことを目的としています。

大学が持つ豊富な知識と人材を活かし、研究や調査を行うことにより、これからの佐伯市のまちづくり、大きき貢献するものと期待されます。

127年の歴史に幕…尾浦小学校で閉校式

3月30日、蒲江の尾浦おいうら小学校の閉校式がありました。式では、永松悦子校長や平成19年度卒業生の山田峻士さんなどがあいさつ。その後、出席者全員で校歌を合唱し、永松校長から西嶋市長へ校旗が返納されました。

式の後には、同校にゆかりのある皆さんが参加し、閉校の集いを開催。同校の歴史を振り返る記念DVDの上映や、全校児童による合奏などがあり、慣れ親しんだ学舎に別れを告げました。

これにより、明治14年に尾浦学校として創立されて以来、127年の歴史に幕を閉じました。児童の皆さんは、4月から上入津小学校に元気に通っています。



出席者全員で校歌を合唱

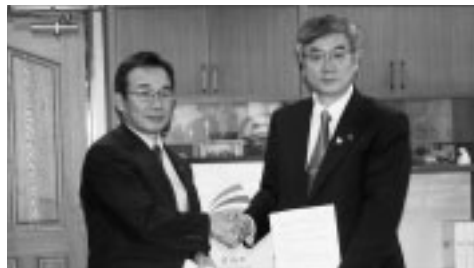
市と佐伯警察署が「暴力団員に対する市営住宅等の使用制限措置に関する協定」に調印

市営住宅周辺の安全な居住環境を守るために

4月1日、市と佐伯警察署が、「暴力団員に対する市営住宅等の使用制限措置に関する協定」を結び、調印式が行われました。

この調印は、県下の市町村では初めてのものです。これからは両者間で情報を提供し合うなどして協力を図っていきます。

最近、全国で暴力団による重大事件が多発しています。そこで、周辺住民の安全の面や税金の適正使用の面からも、暴力団員の入居を制限するよう、平成20年3月議会で条例が改正されました。今回の調印はこれに伴い行われたもの



協力して市民の安全を守ります

造船技術センターで入所式



今年度入所した研修生の皆さん

4月3日、大分地域造船技術センターの入所式が鶴谷町の研修所でありました。同センターは、「団塊の世代」が培ってきた造船技術を若い世代に伝える目的で開所。今年で3年目を迎え、これまでに約80人が巣立っています。今年も佐伯市や臼杵市、山口県、熊本県から27人が入所し、6月までの3か月間で、溶接やクレーン技能などを学びます。

入所式では、研修生を代表して旭洋造船(株)の道坂駿介さんが「熟練された造船技術を伝承し、目標とする技能を習得できよう、仲間とともに頑張っていきたい」と決意表明しました。